

# 神戸新景

No.  
12

P 小山 保



美

酒俱樂部

喜兵衛

神戸市灘区永手町4

喜兵衛北野店—神戸市

聖なる夜に



Flan aux fruits de mer 海の幸のフラン

Sauté de canard aux pommes au four 鴨胸肉のソテー、焼林檎添え

Huîtres au Champagne 牡蠣の蒸し物、シャンパーニュ風味

Crabe et Turbot haché, sauce aux truffes 蟹と平目のアッショ、トリュフソース添え

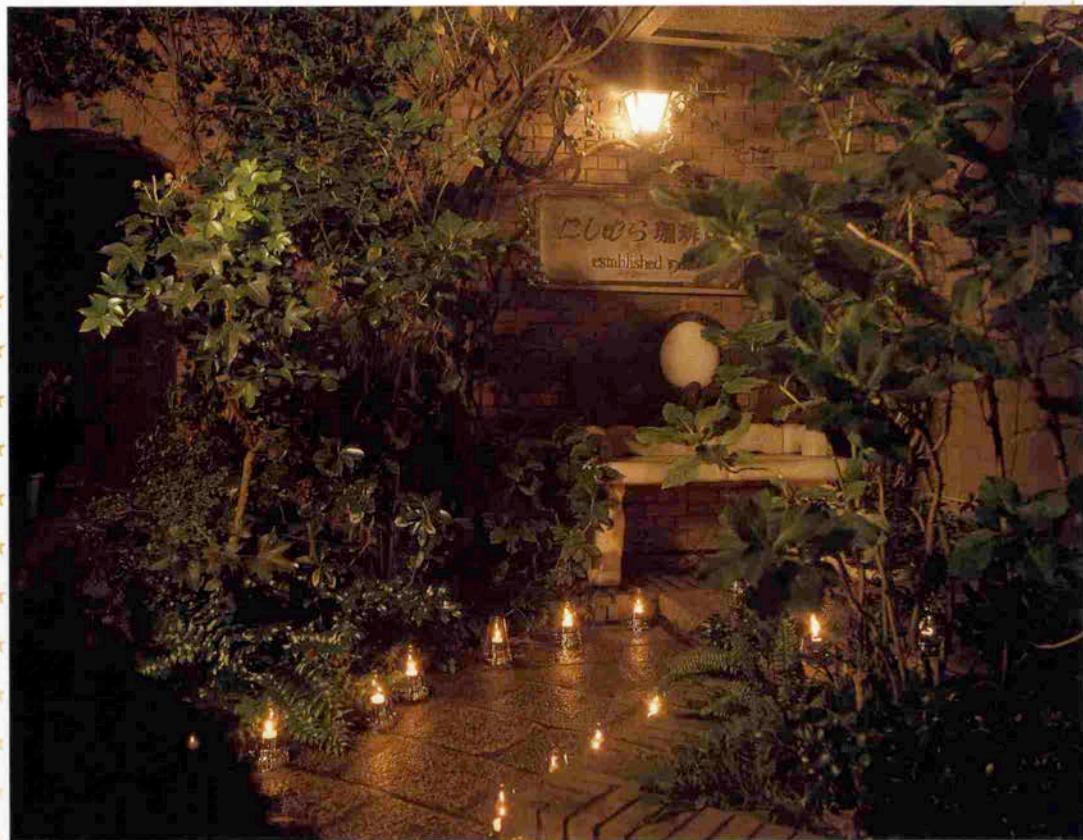
Granité au cidre 林檎酒のグラニテ

Filet de bœuf a la paysanne 牛フィレ肉の田舎風

Gâteaux Noël ガトーノエル

(税サービス料込み) Cafe 珈琲 ￥13,000

シェラメールからの贈りもの



フランス料理  
シェラメール にしむら

神戸市中央区山本通2-1-20 T E L 078-242-2467

クリスマスメニューは22日(木)～25日(日)。  
尚、お昼(11:30～14:00)は特別メニューの他、ミニクリスマスメニュー(¥7,000 税サ込)もございます。年末は12月28日(水)まで、新年は1月5日(木)から営業いたします

# THE FANTASY CHRISTMAS IN KOBE

贈るシーンを素敵にしたい。

贈つて、贈られて――。

それはクリスマスのいちばんときめくシーンです。  
リボンをほどくときのあの一瞬を、

もつと感動的にしたいから。

ひとつひとつに思いをこめて、

さあ、あの人への贈りものを選びましょう。



- この一枚に物語があるエルメスのスカーフ。大人から大人への贈りものに――。
- エルメス／スカーフ……  
30,000円
- 3階エルメスブティック
- ルノーベルグリーノ／ハンドバッグ……  
98,000円
- 1階ハンドバッグ売場

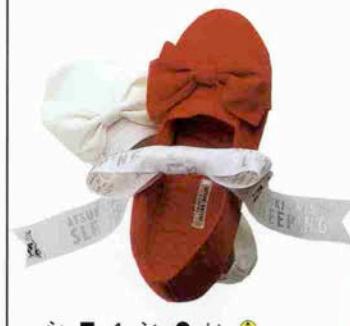


別にドレスアップさせて。  
リボン 80円・ラッピングボックス 600円

年内休まず全館7時まで営業



DAIMARU KOBE  
電話(078)331-8121



①かわいいレディに、かわいい  
シューズを。  
●アツキオオニシスリービ  
ング／ルームシューズ(ヌ)  
4,800円  
■5階アツキオオニシ  
ショップ



■5階ワールドプレステージ

20,000円

●アラビア'88クリス  
マスマブレート(限定30枚)

7,000円

●ポロ／ブレイヤー「プリント  
シャツ」各23,000円・ベルト

7,000円



●アメリカントラディショナル  
を愛する彼にこそ。

●ポロ／ブレイヤー「プリント  
シャツ」各23,000円・ベルト

7,000円

●4階クラブハウス

②贈りものも、この日ばかりは特  
●ラッピングペーパー180円・  
■6階ラッピングハウス

ひと光る神戸です

「すてきね」と誰かが言った。  
きらめく余韻がいまも心に……



ゴーフル ポートピア88  
神戸風月堂 港島

〒650 神戸市中央区港島中町7-2-2 ☎(078)302-5555

DAY…

恋人たちの夢  
海を見ながらおしゃれにブライダル。  
白亜の夢館  
見なれた人々が初めて出会う人のように  
すてきに演出。

NIGHT…

ナイトツリー  
幼き頃の夢が、いま目の前で  
語りだす。

御結婚披露宴・  
各種パーティー

好評予約受付中





これは神戸を愛する人々の雑誌です  
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる  
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ  
これは神戸っ子の心の手帖です。

## 12月号目次●1988・No.332

- 表紙／小磯良平  
セカンドカバー／西村 功  
9 神戸っ子'88／梅岡みちこ・渡辺康雄  
12 ある集い／キングクレジール・M・D・G TANPOPO  
15 神戸スナップ／第2回 “国民文化祭” ひょうごで開く  
16 美の小箱／宮崎 豊治・文・増田 洋  
18 神戸新景／小山 保  
29 わたしの意見／不破 降  
31 隨想三題／立花江津子・山口一夫・元正章  
34 地域文化論／鶴田 勝次  
36 連載エッセイ／私の日留地物語・林田 重五郎  
38 トランベット片手にブラジル一人歩き(15)／右近雅夫  
40 神戸美術夜話／山野英嗣  
43 経済ポケットジャーナル  
44 特集(Ⅰ) 座談会／シネマとジャズとそして神戸  
　　淀川 長治・末広 光夫・瀬川 昌久  
52 特集(Ⅱ) 神戸ジャズセッサー／今崎 瑛吉・安藤 義則  
56 都市計画＝①神戸発都市文化の創造／小泉康夫  
　　の日記念 ②街づくりトークイン「市民が描く未来都市K O B E 像」  
　　フォーラム 東充・村川桂子・神戸一生・木下佳通代・國本喜之・小宮容一  
64 キャンペーン座談会／「ニューリーダー神戸」杉本勇和次・岩佐達道  
　　福原 豊・小川国季・富永敏男・河南比呂子  
70 話題のひろば (Ⅰ)コウベグルメフェスタ  
　　(Ⅱ)木下真珠50周年を迎えて  
　　(Ⅲ)ナチュラルハウス  
76 ファッションスポット  
84 神戸のお嬢さん／森内智津子・永野みどり  
86 ファッションウォッキング ネオ・モーダメルヘンPARTⅡ／鍛原順子  
88 ふたたびプロフェッサーPの研究室／岡田 淳  
121 コーヒーブレイク  
122 動物園飼育日記(276)／亀井 一成  
123 やあ神戸っ子(12)／立岡 佐智央  
123 話題のひろば(Ⅳ)第11回美術家野球大会  
134 神戸の集いから  
136 K F Sニュース  
138 神戸を福祉の街に／サルビア・ディホーム・橋本 明  
140 出会いの旅／砂漠の虹・岡田美代  
142 百店会だより  
144 有馬康時記  
146 猫じゅらし／ラッキー植松  
148 モダンカルチャー  
150 シネマ試写室／淀川 長治  
152 びっといん  
154 ポケットジャーナル  
156 美男インタビュー／鶴川忠臣蔵・大星由良之介の近藤正臣さんを訪ねて  
152 小堀三平の神戸探検／ライヴ、ツアードに夜は更けて  
167 神戸っ子俱楽部会員情報  
172 12月幸運の星占い／長田垂弓  
184 一千一秒物語／大月 雄二郎・銅版画イナガキタルホ  
186 海船港／瀬戸内クルージング “銀河”／かどもとみのる  
カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也



エキゾチズムが漂う  
「ニュートーキョー」元町店が  
今、甦る—。  
レトロにしてモダン  
エキセントリックなロマンとの  
出会いの始まり。

# 忘年会・新年会 予約承ります

風見鶏が  
みた夢物語は  
何だろう。



ご相談・ご予約はお気軽に 078-391-4511

①F ビヤホール「WELL」  
「樽から生まれたてのビールは、最高ダゼ!」  
「自慢のチムニーロースター料理も最高ネ!」  
笑顔と会話がいっぱい。さあ、仲間が揃ったら  
“カンパイ”しようぜ—。  
・営業時間(平日)11:30a.m.~ 2:00p.m.  
4:00p.m.~11:00p.m.

②F 居酒屋「さがみ」  
「とれたての魚って、  
舌にとろけるみたいでおいしい。」  
「熱燗片手に、旬の日本の味って、  
やっぱりうまい。」  
明石港直送の海の幸や、野や山の幸、  
旬の串やきを民芸調の雰囲気の中で  
存分に。(個室もご用意しています。)  
・営業時間(平日)4:00p.m.~11:00p.m.

③F パーティルーム  
・洋室15~50名様用  
和やかな各種ご宴会、ご会合  
などにお気軽にご利用ください

神戸元町[1-ト-1]-

TEL 078(391)4511(大代)

# GIFT & PARTY X'mas

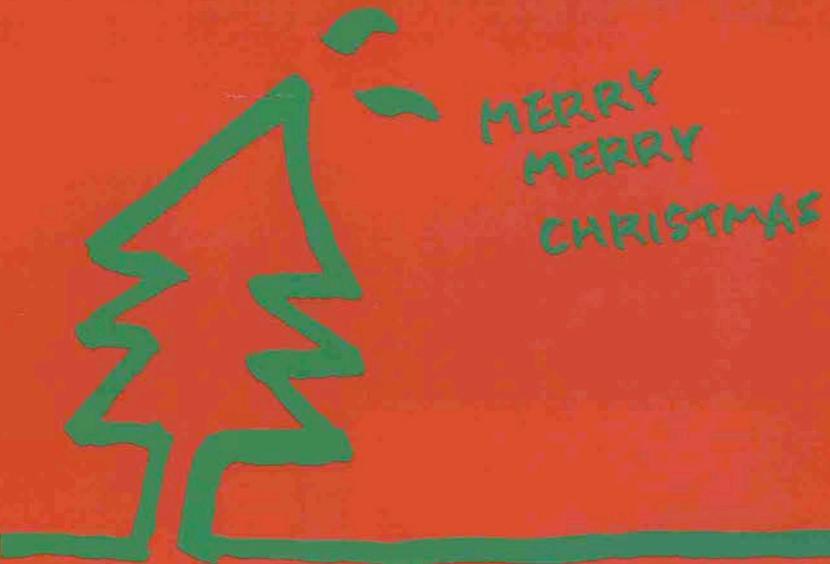
メリーヒル  
ゲルラン  
ポンフカヤ  
シス  
ルーブル・  
ブライダルサロン  
ダイアナ  
オフ  
クロードレマ  
タカノ  
ココ山岡  
三愛

キャンディッド・マス  
マイソングレー  
フォーセット  
ベストン  
ラッキーズ  
キャメルカンパニー  
イーストポーリ  
靴下屋  
フェアリー  
チャイルドウーマン  
リップスター  
ペイントブレイス  
ヴィフ  
パイルチザン  
クレヨン  
マリークワント

アラブダレツ  
ヒュエンティワン  
ミシュー・エタム  
Aug  
リーフット  
アトモスフェール  
ヴィーキー  
カボ  
キャトルセゾン  
ハウスオブロービ  
花王ソフィーナ  
ワコール  
トリンプ  
ラミブル  
ミセラント  
シエール

**FASHION PARK**

神戸・三宮、さんプラザ2-3F  
センタープラザ3F  
営業時間 am 11:00—pm 8:00  
PHONE — 078・332・1698



プレゼントも夢かしら……



**MAC**  
SINCE 1895 KOBE

本部/中央区三宮町1丁目6-22(ニューセンター7F) (078) 392-1651

三宮本店/三宮センター街 (078) 391-0895  
プレザーショップ/トアロード (078) 391-0896  
ドルチェマック/三宮センター街 (078) 332-0141

京都店/藤井大丸2F (075) 211-0857  
姫路店/FESTA 2,3F (0792) 89-4738  
宝塚店/宝塚南口サンビオラ3F (0797) 71-4830

クリスマスプレゼントは  
MACの  
ゴールデンパッケージ。



☆私の意見

# 神戸の町に もつと 文化施設を

不破 隆  
△朝日新聞神戸支局長▽



私は神戸というまちがとても好きなんですね。神戸という独特な香りが肌に合っているようにも思えます。忙しい日々ですが、少しでも時間に余暇ができたときなど街に足を運んでは楽しんでいます。神戸で仕事をするのは今回で二度目、一度目は若い記者の時代で三年間ほどいました。まる十八年ぶりに戻ってきました。そして、早くも二年を過ぎました。あつという間でした。神戸を訪れる人々に「神戸のよさ」を宣伝しているのですが、文化的な施設をもつとつくつて欲しいという投書や声をよく耳にするのですね。そうかなあーと思って文化施設の現状をみてみると、県立美術館があつても市立美術館がなく、市立の博物館が美術館的な役割をしている。さらに県立図書館がありませんね。また、神戸文化ホールがあつても中途はんぱでわざかな人しか入れません。千八百人収容の神戸国際会館もいまや古くなっています。そのうえ、四一五百人入れる、いわばアマチュア劇団が気楽に利用できる劇場もないのです。どうして人口の割合に比べて文化施設が少ないのか疑問に思う、と首をかしげている人たちが多いのです。いろいろな催しを神戸でやりたいと願っている人たちが相当いらっしゃるのですが、場所がないために「やあ残念だ」とあきらめてしまう国際的な催しのケースも私が知っているだけで、かなりあるのです。ごく最近では、三年前にショパン国際ピアノコンクールで一位になられたソ連のピアニスト、ブーニンさんは「神戸でぜひリサイタルをしたかったのに施設がなくて……」と神戸をす通りして姫路で十二月に開くことになったそうです。こうしたひとつの話を聞くにしても残念なりません。国際文化都市神戸の名に恥じないような文化施設をどうか早く次々つくつて頂きたいのですね。私は思うのです。神戸のよき香りを一人でも多くの人に知つてほしいなあーと。間違つてもらいたくないのは、外見だけでなく中味のともなつた香りということなのです。今年もあとわずかになりましたが、どうかよいお年をお迎え下さい。

(談)

クリスマスパーティの装いに



ご婚礼・お衣装・お仕事



本店／神戸市中央区三宮町  
2-6-4 三上ビル  
TEL 078-331-8894(代)

フォーマル&ウェディング

レンタルブティック

三宮店／TEL 078-331-3258  
岡本店／TEL 078-413-0448

こんにちは赤ちゃん



あいな  
吉田愛菜ちゃん／大阪市東成区

「女の子でーす！」

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦柿沼産婦人科



芦屋市大柄町1番18号

芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

## 語りかける窓

立花江津子  
（ステンドグラス作家）

ステンドグラスは元来、それを見る人に語りかける事を意図して

考え出された窓のことである様に思う。ステンドグラスらしい形で文献が現存する九世紀頃から

ロマネスクを経てゴシック建築の中で開花したステンドグラスは十五世紀頃までが一番それらしい

姿を留め、美しいものが多い。そしてなぜかしらやさしく暖いのである。ヨーロッパ中世に於て、無

学で字の読めない人々でも教会堂に人つて窓を見上げるだけで神のこと、聖書の話、聖人たちの伝記、教訓的な話から各ギルドのコ

マーシャルまで知る事が出来た。それは人々にとって理解し易く、心を捕えて離さない不思議な魅力

で人々に語りかけたからである。見つめていると色つきの美しい光に包まれてその窓の世界にすっと入って行けた。ステンドグラスは唯の風よけ窓や装飾ガラスの窓ではないのである。

ヨーロッパでは現在でも建具のような装飾ガラスとステンドグラ

ラスは、はつきりと区別されていて制作する人も見る人も区別して

理解している。日本の現状のよう

に素材としてガラスブロック、鏡、石などを使用したり、鉢植か

らランプシェード、装飾ガラス、ガラス絵までもひつくるめてステ

ンドグラスとは言わないものであ

る。色や形の面白さだけを追求し

たものや色紙細工のようなガラスがつなぎあわされたもの、ただ何

かが描かれているだけのもの、これだけではステンドグラスとしては足りない

のである。

## 現代の建築

物の空間には

めこまれたモ

ダンなテーマ

のステンド

グラスであつ

ても、やはり

中世の人々が

仰ぎ見た窓の

よう、何か

い。

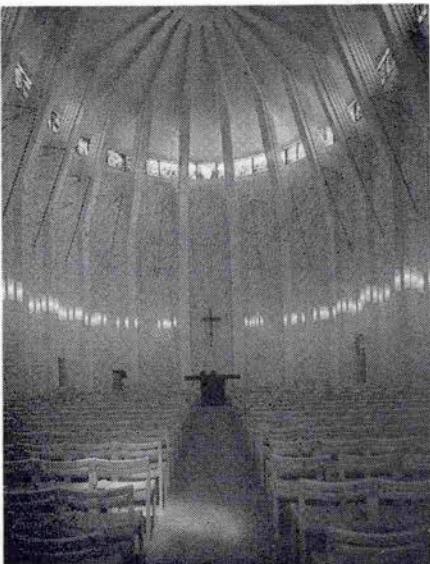
窓は宗教的なものに限らず現代のあらゆるものがテーマとなり魅

力的なステンドグラスとなり得るのである。又素材や技術、表現

がある意味で限られているからこそステンドグラスと言えるのだ

と思う。

ステンドグラスは光との対話、語りかけ、又それに答えるやさしい芸術なのである。そのやさしさの中で日々仕事が出来る幸せを感じるこの頃である。



松蔭女子学院大学チャペル

## 隨想三題 赤穂義士雜考

山口 一夫  
（兵庫日産自動車社長）



「兵庫の生んだ、民族の英雄、赤穂義士四七士」と素直に言つてよいのだろうか、という疑問が、私にはあった。元禄太平の夢を破り、世を震撼させた義挙の当時、赤穂藩の藩士約三六〇人の内、かなりな藩士が播磨國以外の諸国よりやってきた筈である。生國を、播州とした義士は何人いたのであろうか？

赤穂義士に関する書物、資料は多くの史実研究家によつて世に出来ているので、この点についての資料を探すのは、さほど、困難ではないと考へた。が、意外にこれがなかつた。大石内蔵助など、特定の義士については、記述されたものはあつたが、四七士全員の生國を記述したものは、どうしても見当らなかつた。そこで地元の大石神社さんに相談したところ、ここにあつた。

同神社宮司、飯尾精氏が編集委員になつておられた赤穂義士事典刊行委員会が発刊された「赤穂義士事典」に正確な記述があつた。生國は次の通りであつた。播州赤



公演中の「忠臣蔵」の一場面

穂を生國とするものは、大石内蔵助をはじめとして、二二名、播磨一名、美作四名、笠間三名、近江国二名、奥州二名、江戸一名、志摩一名、名古屋一名、越後一名、生國不詳九名。

約半数の義士が、播磨赤穂を生國としている。また播州赤穂といふ土壤の中で培われた武士道が、見事に花開いたのであれば、生國にのみこだわることはないであろう。まさに、赤穂義士の義挙は、

兵庫が生んだ快挙であつた。  
さて、武士道の華と讀えられた義士自身は、誠に本懐の至りであつたと思うが、この、男たちの意地を支援し、これを果さしめた、女たちの哀しい立場は、戦さ場にきらりと光る朝露のように、心うつものがある。

浅野家譜代の臣、間嘉兵衛光延は、長子十次郎、次子新六と共に、義挙に加わつた。嘉兵衛の妻は、夫と、息子二人を一度に失い、四人の娘をあとに残された。

「赤穂義士事典」に次の様な記述がある。

「元禄一五年六月一八日、京都本圓寺で、小野寺十内の妻、丹が死んだ。丹は、一挙で、夫十内、養子幸右衛門をはじめ、幸右衛門の実兄、大高源五、甥にあたる岡野金右衛門を一度に失い、さみしさに耐えられなかつたであろう。まことに、哀しい妻たちの記録である。

# ドンキホーテに祝砲

## (ロドニー賞を受賞して)

### 元正章

△六甲を考える会代表△

神戸開港を祝つて、幕末の神戸へ駆けつけ祝砲を放つたという。イギリス艦隊の旗艦ロドニー号である。その祝砲を当時の神戸っ子はどうに耳にしただろうか。どこかの港では、黒船の来襲かと驚いたというが、そこは開放的で明るい気質の神戸っ子のこと、物見遊山ならぬ物見遊港とばかり楽しんだに相違あるまい。

そのロドニー号にちなんだ、ロドニー賞をいただいた。元来、ドーン、ドーンと大砲を打ち放す性分らしい。もつとも、自分自身では人を驚かすような大砲などとはみじんも思つてなく、日常的な活動を普通にやっているつもりなのだが、それを祝砲と受け取つていただけたのなら嬉しいかぎりである。

とまれ、この賞は私個人に与えられたというよりも、「六甲を考る会」に与えられたと考える方が正確だろう。会のメンバー一人ひとりが、わが街六甲をよくしようと頑張つたことによるものと思う。街を愉快にするということは地



11月5日受賞式が行われた（左・夙月堂吉川相談役より授与）

域活動を通じて、我々自身が愉快であらねばなるまい。その意味で、六甲の街は可能性にあふれた面白いところだと痛感する。それにしても、神戸において活動しているグループは多岐にわたって活動しているし、我々よりもっと立派な活動を行なっているグループも多々見受けられる。ところがどうであろうか。余りにもまじめ過ぎ、堅過ぎるのは神戸っ子に受け入れられない。この辺が、いか

にも神戸的ではある。神戸っ子は不思議にどこかで醒めている。執着するということがなく、カラリとしている。南向きの傾斜地で陽光が満遍のない風土によるものと推察される。

一生懸命生きている人は確かに美しいし、その姿は理屈抜きに称赞に値するのだが、それが深刻になつてくると、多くの人々は敬遠がちに見守つてしまふのも事実である。賢明すぎる為に失敗した例はなにも珍らしい現象でもない。時には意識してバカにふるまうことが必要となつてくるのだ。運・鈍・根とはよく言つたものだ。

かくて、ドンキホーテ的にやつた方が成功するということを、「六甲スペイン祭」等、いろんな企画を実践していく中で学んだ。

実際、何をやるにしろ△好きこそもの上手なれ△を自ら体现できれば、それが一番幸せな人生ではなかろうか。

神戸の街のあちこちで、祝砲が上げられることを望む昨今である。



△その112

## 岡山県立美術館のゆつたりした建築に次の展開を思う

嶋田 勝次

（神戸大学建築学科教授）

この頃「ポストモダニズム派」とでも呼ばれる建築家が出て来たといえるのかもしれないが、それらの傾向は単なるあだ花かもしれない。それよりまつとうに近代建築をじっくり展開しようとしている中年（？）の建築家達がいい作品を次々発表している。

そのお一人は、この前に紹介させていただいた内井昭藏氏であり、東京の世田谷美術館につづいて名古屋に近い一宮市立博物館の新作があるが、岡山では岡田新一氏の岡山県立美術館の堂々たる建築が生まれている。

岡田氏はもともと岡山出身の由だが、独立して事務所を設立されるまで鹿島建設設計部に席をおかれ、東京の最高裁判所のコンペで最優秀作をとられたのを機に、新しい方向に転向された。この最高裁判の建築は、正義の殿堂として品位と重厚さを表わす建築材料を求めて、外部と内部を御影石を基調とするみごとな石の建築を、宮城のお堀端に築き上げたのである。

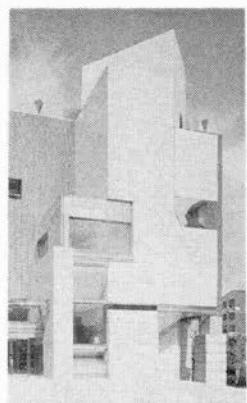
この最高裁判建築（四九年）のあと、氏は岡山でオリエント美術館

（五四年）を建築して好評を博したが、それと數十米だけおいて、東西並ぶように更に新しい一步を踏み出したこの建築が完成した。

出来たてのこの美術館は、万成石を中心とする石材をふんだんにとり入れたデザイン構成となつており、今日の豪華な時代の産物となつてゐることがわかる。

更にこの玄関ホールのゆつたりとしたひろがりには、都市の喧噪はない。明るい吹抜けロビーには心安まるひとときのんびり持つことが出来るオアシスである。

瀬戸大橋が完成し、本土と四国の方で行なわれた博覧会も終つて今は静かな芸術の秋、私にとっては昨日までの関東でのこまぎれの学会発表も終つて豊かな時と空間をひとりで味わえる喜びをかみ



▲美術館リーフレット表紙外観は西側玄関

しめている。丁度この日は企画展としてアメリカのメトロポリタン美術館の風景の名作「ハドソンリヴァー派の世界」を鑑賞出来たが、当館の常設展での郷土作家である雪舟、宮本武蔵、浦上玉堂、小野竹喬、国吉康雄、平櫛田中、そして瀬戸内海の風景画にますます心なごむ時を与えた。

それでも建築の世界には、芸術にふれて心暖まる造形は提供されるのだろうか。

このところ建築デザインの傾向が、ポストモダニズム的動向とは別に情報化に対応したようにハイテク化やメタリック的指向が強く現われて来て、近代主義的な機械や機能を重視する流れが、六十年代以降からあえて反逆するヴェクトルを生みつあり、新しいエネルギーを繋きつつあるように思われるのだが、そのような方向はいつ明確になって来るのだろうか。

最近の多くの状況の変化が早く単純に割り切れるものではないが、それでも息の長い様式が定着されるまで直ぐに結論を導き出せるものではない。なだらかな変化が必要だとすれば、やはりポストモダニズム派からではなく、安心して見ながら思うのである。

# ガス灯・街路樹・門柱

文・写真  
林田重五郎

（元新聞記者）

前回、旧居留地の古い写真4葉をのせてもらつたところ、「52年前とは思えない鮮明さ」とほめてくれた人がいる。気をよくして改めて昭和11年撮影のネガ計38葉を全部中判に引き延ばした。その代金1枚200円、50年前なら給料の2倍。鮮明なのはわたしの腕によるものではない。先輩にテストを頼まれたカメラが、当時ライカと並

ぶドイツの名品コンタックス。プラプラ居留地内をプラつきながら、パチパチとつただけである。

当時の給料数カ月分の名器だった。

こんど引き延ばしたのをよく見ると新発見もある。写真としての出来は別にして、あのころの街の感じの出でているのを何枚か並べて見よう——52年前の香いパンパンの写真を：

## ◇ ガス灯

まず写真④、右手のヤナギの向うの電柱の少し先、自転車の右の歩道の外れにガス灯の立つているのが見える。場所は居留地東部の伊藤町あたりと思える。当時は中央部に比べると人も車も少なかつた。

ガス灯は旧居留地の象徴としてその当時も有名だったはずである。こちらは無風流なころで、探しもせず、どことどこに立っていたかの記



A・旧居留地東部の伊藤町あたりか（昭和11年撮影）

いまガス灯を記念する一基が大丸の北側に保存されている。「明治7年ごろから…柱台にロンドン」とある。街灯として日本では最も古いガス灯もこれと同

憶もない。ただ夜勤の途、神戸水上署から三宮署へ、人影もほとんどない京町を歩いてゆくとき、ところどころ道を照らしてくれた白光があつたのを覚えている。あれはガス灯だったのか電灯だったのか不明である。わがクツの音の高さだけは現在も耳をはなれない。

じだろう。ただこの姿をうつされた昭和11年ごろには光源がガスであったのか、電気に代っていたのか不明である。

### ◆ 街路樹

当時の小生は無風流ではあったが、街路樹が年老いた姿で、あちこちに残っていたのはよく覚えている。太くなり、グネグネと車道に拡がつていて、年輪はさすがであった。写真Ⓐの右側のヤナギなど…。

昭和11年の写真のなかにも、たとえば写真Ⓑなどその代表である。これはたしか播磨町の、ナカマチと交わるあたり、ヤナギの曲がり方が面白い。写真Ⓒは、あのころのオリエンタル・ホテルの前。この電柱の前の1本はヤナギなのか、他の街

路樹なのか、わたしにはわからない。だがホテルの形とともに、たまらなくなつかしい1枚である。当時の自動車がホテルの前に大行列、なにか会でもあったのか。

さていまやっと気がついたのは、なぜあのころの旧居留地のブラブラ歩きが気楽であったかの理由である。写真ⒶⒷⒸでおわかりの通り、街路樹はみな車道に植えている。歩道は幅広く、のびのび。だからこそ歩くことが楽しかったのだ。

写真Ⓓは多分江戸町の通りを南から北へながめたものと思われる。播磨町かとも思い、この間わざわざ調べに行つたが、この写真の正面に見える市背山の形は、二つの通りともいは銀行など高いビルのおかげで見えないので。なつかしいこの通りの姿。ほんとの旧居留地の形。やはり樹木は



C・旧居留地播磨町の南の方の当時のオリエンタルホテル前（昭和11年撮影）

車道に立っており歩道はノビノビ。

いま旧居留地を歩いて見た。歩道はより広くなっている。さすが神戸だ。ただし50年前には車道を走っていた自転車が「歩道」を走っている。

街路樹は昔よりふえている。特に背の低いアベリヤなどが多くしかも美しい。あの中央部の、太陽神戸銀行の高層ビルの南半の周辺、建築基準法59条の2による「公開空地」とあるが、広大なサツキなどの行列にはほれぼれした。ミドリに関する限り、いまは昔に負けてはいない。

### ◆門柱三拾

前回に書いた大丸東側を南下した角の昔のナショナル・シティ・バンク・オブ・ニューヨークの古い建物の復元が完工していた。し



写真左上から（昭和11年撮影）

- E・明石町あたりにあった門標
- D・旧居留地の東部、多分、江戸町の通りを南から北へがめたものと思われる
- B・旧居留地の中央部・播磨町あたり

ぶい薄茶色の柱、壁。昔を思い出すに十分な、すばらしさである。銀行名は見当らなくなつたが…。その筋向いが30番館ということは大丸北側の旧居留地の説明地図でわかる。その52年前の門柱の写真が、新しく引き延ばしたなかの1枚にあつたので写真⑩として、ここに、見ていただく…。現在はまことにすばらしいファッショント・ビルになっている。ナカマチ側の歩道から、上品な女性がたくさん出入りしていた。50年前には見られなかつた風景である。